

臨床精神薬理

Vol.21, No.3 Mar. 2018

Japanese Journal of Clinical Psychopharmacology

●展望

「うつ病」流行の背景について……………古茶 大樹

●特集 過剰診断・過小診断と薬物療法

うつ病診断の基本問題と薬物療法の役割……………白川 治

双極性障害における診断の変遷と薬物療法の進歩……………田中 輝明

おとなのADHD——児童期ADHDと成人期ADHDの非連続性について

……………鈴木 太, 牧野 拓也

精神科領域でみられる適応外使用の現状……………山本真江里, 稲田 俊也

疾患啓発広告が医療に及ぼす影響……………山本 暢朋, 稲田 俊也

過剰診断と処方薬依存症——抗うつ薬とベンゾジアゼピン系薬剤を中心に

……………辻 敬一郎, 田島 治

増え続ける認知症患者と抗認知症薬の使用ガイダンス……………篠原もえ子, 山田 正仁

知的障害への向精神薬処方が増えているのか?……………藤田 純一, 井上 祐紀, 奥村 泰之

●原著論文

Fluvoxamine maleate(SME3110)の小児強迫性障害患者を対象とした

プラセボ対照無作為化二重盲検比較試験及び非盲検長期投与試験（第Ⅲ相臨床試験）

……………樋口 輝彦, 齊藤万比古, 市川 宏伸 他

●総説

アルコール依存症薬物療法の実際と課題——Aripiprazoleとtopiramateの

臨床使用症例から……………水野 貴史, 菊山 裕貴, 永井 拓 他

●私が歩んだ向精神薬開発の道——秘話でつづる向精神薬開発の歴史

第80回 新たに登場したADHD治療薬の開発物語

その3：降圧薬からその作用機序を利用して転身に成功したguanfacine……………村崎 光邦